

全科協ニュース

1980年11月1日発行
(通巻第56号)

全国科学博物館協議会

東京都台東区上野公園
国立科学博物館内
〒110
Tel. 03-822-0111(大代)

おもな内容： ◇特別展 製薬の発展とドイツ 富山市科学文化センター ◇特別展「象狩りをした人たち」について 大阪市立自然史博物館 ◇会員館園の紹介 愛媛県立博物館 ◇博物館職員講習について

【特別展】 製薬の発展とドイツ

富山市科学文化センター

富山医科薬科大学の渡辺裕司さんから「製薬の発展とドイツ」と題するパネル展覧会を開催してほしいと頼まれたのは今年の2月であった。これは京都ドイツ文化センターから依頼のあったものだが、大学で行うよりも、観客の集まりやすい科学博物館施設である科学文化センターで行ってほしいというのである。京都ドイツ文化センターの考えは製薬業の盛んな上地である富山でこの企画を行おうとしたものと考えられるが、昨年11月にオープンしたばかりの当館のことは京都の方に知られていなかったのであろう。

さて、私たちは、原則的にこの申し入れを了解したもののいくらかの躊躇があった。それは第一に私たちの館のスタッフの中に製薬についての専門家がいないだけでなく、ましてドイツの文化や産業に造詣の深い者などいないからである。内容について市民から質問されても館員の誰もがまともに答えられないような展示をしてもよいかということである。少なくとも内容にある程度の責任を持たなくてはならないという意見が多かった。第二にこの展示会はパネル展であり、実物資料等が無いということである。できれば実物資料もしくはレプリカなどそれに準ずるものを主体とする展示をしたいという考えを

もっていたからである。

そこで第一の点については京都の方から専門の人が来るのか、内容についてのパンフレットを作ってくれないか問い合わせた。また第二の点について、実物資料等が無いのか、関連の講演会ができないか、映画などは無いかな等を問い合わせた。私たちの申し入れに対して京都ドイツ文化センターの方ではいろいろ調査し検討してくださった。その結果、実物資料は無く、京都から人員を何度も派遣することはできないが、映画をふくむ講演会をもつこと、パンフレットを作ること、そして殆んど費用は京都ドイツ文化センターでもつことを回答されてきた。私たちは内容についての知識がないという点を心配しつつも積極的意義を考え、京都ドイツ文化センターとの共催で、開催することにした。会期は、春と秋の特別展の中間で、観客が多く集まりそうな夏休み期間とした。

展示会は50枚のモノクロの写真、イラストにドイツ語と日本語で解説を加えたもので、製薬の歴史そのものとその発展の文化的側面をも併せて解説したものであり、ドイツの生活文化面での発展と製薬の発展におけるドイツの役割を強調したものである。展示の大まかな構成は次のようであった。

- 第一部 古代からルネッサンスまで
- 第二部 バロック時代から19世紀中頃まで
- 第三部 19世紀中頃から現代まで

7月25日から8月31日までの会期中の入館者は22,500人ほどであったが、大きな反響はみられなかった。実物のない展示会の弱みを痛感した。

講演会は、8月9日(土)に西ドイツ・マールブルク大学教授で、現在京都大学人文科学研究所へ東洋医学の研究に来ておられるウンシュルト博士をお迎えし「ドイツ製薬の歴史」というテーマで行うことができた。PRは



市内の全家庭に配布される市広報のほか、市役所の機関の窓口・県内の学校・博物館・製菓関係等へ、文書やパンフレットを配布した。またマスコミや県・市の製菓関係にもお願いした。ところが聴講者は70名どまりで180名余り入る会場には閑古鳥が鳴いてしまった。ドイツ人講師への敬遠と通訳のあることのPRが不足したためかもしれないことを反省している。しかし、内容は興味あるものであり、同時に行った映画会もなかなか興味深い

内容のものをを行うことができた。

私たちは特別展は自前で調査研究した成果を自前で収集した資料で展示したいと考えているが、この特別展を通じて地方にも国際的感覚の特別展をもってくることの利点を感じた。さらにPRについてもそれなりの工夫をする必要を感じた。なお、この特別展を行うにあたり、京都ドイツ文化センターには、多大の御尽力をいただいた。紙面を借りて厚くお礼申しあげる。(布村 昇)

特別展「象狩りをした人たち——ぼくらの野尻湖発掘」について

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館では、毎年1回、秋に特別展を開催している。今年は8月24日から10月26日まで、標題のテーマで行った。

野尻湖立ヶ鼻地域は、後期旧石器と共にナウマンゾウ、オオツノシカなど絶滅した哺乳類化石が多数発掘されている、日本で唯一の地域である。そこで発掘は、日本における旧石器時代のヒトと自然のかかわりについて考えるうえで、極めて貴重な資料を提供している。

発掘は1962年以来続けられており、1978年の第7次発掘には2,897名が参加した。参加者は大人から子供まで、専門家から一般の人まで、あらゆる階層に及んでいる。「野尻湖友の会」の会員であれば、だれでも参加できること、そしてこれだけ大勢の参加者全員が、それぞれ係を受けもって、発掘の成功のために力を合わせるなど、組織的な面でも特筆すべき発掘である。「野尻湖友の会」は、第6次発掘(1975年)の後、発掘参加者から、「第7次発掘までにもっと勉強したい。」という声が起こり、全国に組織された団体で、野尻湖発掘調査団の支部にあたる。第7次発掘は、この友の会を基礎に組織されたのである。大阪でも「阪神わかやま野尻湖友の会」が作られ、当館第四紀研究室に事務局が置かれている。

野尻湖発掘の成果については、すでに多くの書物で紹介されているが、発掘品の総合的な展示公開は、長野県



展示パネルを作る、阪神わかやま野尻湖友の会会員

外では行われていなかった。そこで、阪神わかやま野尻湖友の会の会員から、「ぜひ大阪のもっと大勢の人たちに、野尻湖発掘のことを知ってもらいたい。」という希望が出された。ヒトと自然のかかわりの歴史を明らかにし、展示することを目標の一つにしている当館としても、野尻湖展を開催することは有意義であり、3年間の準備をへて、今年の特別展開催に至ったのである。

実行にあたっては、野尻湖発掘調査団と当博物館の共催、阪神わかやま野尻湖友の会協力という形をとった。具体的には、展示物(化石・考古遺物)の大部分は、現在調査団が保管している発掘品を借用し、展示プラン作成と展示準備は、学芸員をはじめとする博物館員と友の会会員との協力のもとに行われた。もちろん、事務局が置かれていることでわかるように、当館の学芸員が友の会活動の中心を担っている。しかし、展示においても、「みんなでやろう」という野尻湖発掘の精神で取り組むことを重視したこと、分野的にも、学芸員だけではカバーしきれないことから、上記のような形になったのである。友の会会員には、特別展オープン後も土曜日の午後と日曜日に、説明係として協力していただいている。

さて、当博物館の特別展では、これまで共催という形をとったことがなかった。そのため生じた問題もいくつかある。まず、これまでの特別展は学芸員の研究成果を市民に公開するという性格が強く、展示物はほとんど自前であった。そのため、準備はマイペースで進めることが可能であるし、予算の組み方も毎年ほぼ同様であった。ところが、今年は展示物の大部分を借用するために、美術梱包を依頼することをはじめ、予算の各項目の額が、例年とかなり違うことになった。予算要求をするのが前年9月であるため、ほぼ1年前に展示プランを決め、どんな資料を借用するかまで決定する必要があった。つまりスケジュールが例年と異なり、とまどうことが多かったのである。

入館者の反応としては、発掘品に対する率直な驚きを示しているものが多いようであった。(樽野 博幸)

 会 員 館 園 の 紹 介

愛媛県立博物館

所在地 愛媛県松山市堀の内 教育文化会館内
電話 (0899) 41-1473

当博物館は、国際観光温泉文化都市と銘をうち、また、四国最大の都市でもある松山市に、純粋な自然史博物館という位置づけでつくられている。

愛媛県は、豊かな生物相をもつ瀬戸内海、黒潮の影響をうける宇和海、西日本の最高峰石鎚山など、複雑な自然と古い地史を全国に誇り得る県である。この恵まれた自然環境のもとに発展してきた当博物館は、単に県内の学校教育や社会教育の場として世に貢献するにとどまらず、全国の自然愛好家たちにも、広く親しまれている。

1. 沿革

昭和34年、県立図書館の付属博物館として誕生し、36年、愛媛県立博物館として独立した。発足当時は、図書館の4階を間借りした感じの手狭な施設であったが、資料の充実とともなって新館建設の機運が高まり、昭和50年に現在の位置に装いも新たに生まれかわった。

2. 施設と展示内容

(1) 系統展示を中心とした第1展示室(4階:図1)

約510㎡のフロアに、郷土の自然史が一目でわかるように、ジオラマ、パネル、標本等でシステムティックな展示をしている。

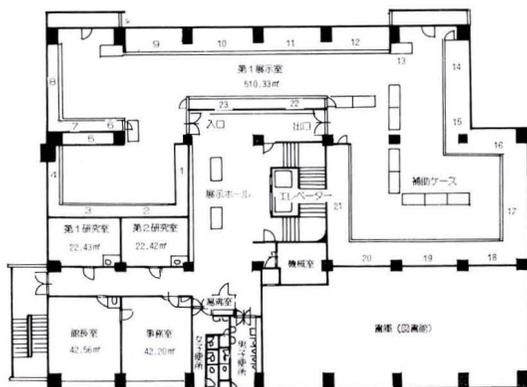


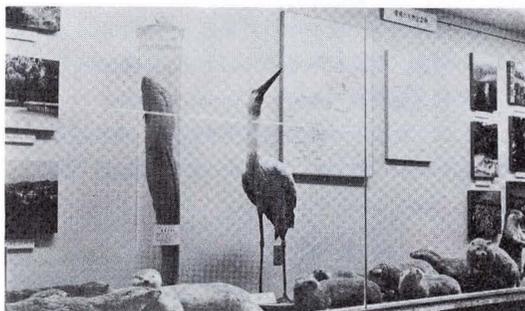
図1 博物館第1展示室を含む4階平面図

1~13は、郷土の生いたちを紹介する目的の展示コーナーである。1愛媛の地質、2愛媛の地下資源、3赤石山の地質、4石鎚山の地質、5大野が原の地質、6日本の火山、7日本の石炭、8生物のうつりかわり、9古生代の愛媛、10中生代の愛媛、11第三紀の愛媛、12第四紀の愛媛(9~12はジオラマ)といったタイトルで展示し、13の壁面には、本県来島海狭から引きあげられたナウマンゾウの化石を展示している。

14~21のコーナーは、現存の生物を標本で紹介してい

る。14宇和海の自然、15瀬戸内海の自然、16石鎚山の自然、17森林にすむ動物、18草原にすむ動物、19山野にすむ動物、20水辺にすむ野鳥、21世界の動物のコーナーに分け、テーマ別に系統的な展示を行っている。

さらに、22、23のコーナーは、愛媛の天然記念物を展示しており、特にニホンカワウソの標本は、当館以外では容易に見ることのできない貴重なものである。



ニホンカワウソなど愛媛県の天然記念物27点を展示

(2) 分類展示を中心とした第2展示室

5階の第2展示室(約220㎡)には、系統分類学的に整理した標本約7,000点を陳列し、自然界を構成しているものの基本的な知識が得られるよう配列してある。

ここでは、四国地方に産する自然物の主要なものは一通り見られ、種類の比較や名まえの同定、鑑定もほぼ行うことができる。

壁面は、地質時代の復元図、地質図、動植物の系統図など常設的な展示以外に、季節の植物や昆虫などをパネルや標本で解説する特設的な展示にも活用している。

3. 年間事業

- (1) 特別展示……5階特別展示室で、年間6回(偶数月)約2週間にわたって開催している。
- (2) 特設展示……4階ホールで、毎月テーマをかえて展示している。
- (3) 天文教室……5階特別展示室で、毎月1回、簡易プラネタリウムの投影による天文教室を開催している。主として、小・中学生が対象である。
- (4) 移動博物館……県下5地区を選定し、1地区につき5日間を原則として巡回展を開催している。
- (5) 自然科学教室(関連行事)……県下の小・中学校教師ならびに有志の協力を得て、松山市、今治市、宇和島市の3地区別に月1回、野外学習会を開催している。

今年度の博物館職員講習のおしらせ

このほど国立社会教育研修所主催の昭和55年度博物館職員講習の実施内容がきまり、各都道府県教育委員会に通知された。この講習は、博物館等に勤務する職員の資質の向上を図るとともに、自然科学系の学芸員の資格取得に資するためのものであり、単位修得が認定されると学芸員の資格を取得することができる。

昭和55年度、昭和56年度の2か年にわたって実施されるが、今年度の講習期間は12月2日(火)から12月20日(土)までとなっている。昭和56年度は、新たに募集をしないので、特に御注意いただきたい。

今回の受講希望の締切は11月5日(水)であるが、実施内容の詳細、受講資格等については、各都道府県教育委員会の社会教育課へお問い合わせください。

なお、国立社会教育研修所の所在地は、東京都台東区上野公園12-43(☎110 電話 03-824-0241)である。

会員館園の消息

(新入会)

- 沖縄県立博物館 館長 外間 正幸
☎903 沖縄県那覇市首里大中町1-1
TEL (0988) 86-4353
- 放送文化館 事務局長 北尾 正康
☎565 大阪府吹田市千里丘北1-1 毎日放送内
TEL (06) 878-5141
- 史跡・生野銀山と生野鉱物館
(株式会社シルバー生野) 支配人 横山 圭一
☎669-51 兵庫県朝来郡生野町小野字谷筋33-5
TEL (079679) 2010

- 日本金属学会附属金属博物館 館長 今井勇之進
☎980 宮城県仙台市荒巻字青葉
TEL (0222) 23-3685
- 阿南町化石館 館長 佐々木忠次
☎399-15 長野県下伊那郡阿南町富草3,905
TEL (02602) 2-2501
- 長野原町菅浅間園浅間火山博物館 館長 市川 儀一
☎377-14 群馬県吾妻郡長野原町北軽井沢
TEL (02798) 6-3000
- 府中市立郷土館 館長 朝倉 雅彦
☎183 東京都府中市宮町3-1
TEL (0423) 64-4111 (内線2036)
(購読会員)
- 群馬県婦人青少年センター (館長 新井常夫)
☎371 群馬県前橋市大手町3-13-5
TEL (0272) 32-2166

あ と が き

- 9月11日に東京都児童会館の会議室をお借りして、本ニュースの編集委員会を開きました。従来の会場は事務局のある国立科学博物館がほとんどで、雰囲気が変わったため新しいアイデアが続出し、今後のニュースの充実は明るい見通しです。
- 本号は、原稿依頼の段階で執筆予定者の都合が悪かったり、原稿が間に合ったものが少なかったりで4ページとなってしまいました。次号増ページの予定。
- 全科協未加盟の科学博物館へ入会の依頼状を9月末に送付しました。会員数が増えつつあります。
- 編集委員石川博幸氏は、10月1日から府中市立郷土館に勤務することになりました。
- 前号の本ニュース「会員館園の消息」欄のうち、東京都児童会館の新館長は繁井武代氏の誤りでした。お詫して訂正します。




株式会社 東京スタデオ

本社 東京都豊島区駒込1-14-6 TEL 03・946・8241

TOKYO SAPPORO SAITAMA HAMAMATSU TOYOHASHI KYOTO